

新年度を迎えて ～新たな旅立ち～

今年も新しい仲間を迎え平成 28 年度がスタートしました。この季節は人事異動があり、一緒に仕事をしてきたメンバーが去り寂しい時期ではありますが、逆に新しいメンバーに入れ替わり病院に活気がでてくる時期でもあります。国立病院機構は中国四国の病院間で人事交流が行われており年度初めは職員の入れ替わりが恒例となっています。このような人事の異動は一長一短ですが、人材の入れ替わりにより職場のマネリ化を防ぐ意味は大きいように思います。昨年度は旧の高知病院時代から勤務していました副院長の篠原一仁先生が定年を迎え退職となり大きな区切りの年度となりました。事務部長も定年退職となり、平成 28 年度は高知病院の「新たな旅立ち」となる重要な年度になりました。後任の副院長には徳島大学呼吸器外科科長の先山正二先生、整形外科の後任として徳島大学準教授の福田昇司先生が赴任されました。また、婦人科科長の木下宏美先生も医療センターから転任してこられました。これらの先生方以外にも中堅の先生が多く赴任してこられ、また、事務方はじめ、他部門の職員も大きく変わり再出発の環境は充実してきています。今年度、診療報酬改定が行われましたが、医療費高騰により病院を取り巻く環境は良くなることは期待できない状況ですし、次回の改定は更に厳しくなってくるのが想定されています。このような時病院を継続して行くには全ての職員が知恵を出し合いどのような悪い状況にも対応できるように病院を強化していくことが重要です。高知病院の目標は「地域に信頼される病院になる」ことです。実現のためには医療の質、チーム医療、地域貢献、人材育成、臨床研究などの重要な課題を解決していくことが不可避です。医療の質を高めるためには「根拠に基づいた医療」を実践せねばなりませんし、全職員の専門性を結集し全人的医療を行うことでチーム医療の遂行が可能となります。さらに、地域住民の医療・介護・保健・福祉に貢献するために、相互に機能分担・連携できるシステムを構築せねばなりません。また、次世代の医療を担う人材育成は重要で教育そのものの質を高める必要があります。国立病院機構では臨床研究に重点をおいており当院でも医療の発展に寄与するため、現場に根ざした研究を進めていかねばなりません。しかし、これらを実現し継続するためには健全な経営が最も重要な課題となります。今年度は非公務員化、中期目標管理法人になり 2 年目に入りますが今最も重要なのは職員の意識改革ではないでしょうか。「ワイガヤ」という言葉を聞いたことがあるかと思います。これは立場にかかわらず同じ組織に属する者たちが気軽に「ワイワイガヤガヤ」と話し合うことで本田技研工業が提唱した言葉です。「ワイガヤ」が単なる時間の浪費か仕事の発展に役立つか多くの意見がありますが組織内で意見を出し合うことは重要なことと思います。指示待ちの受け身の姿勢で勤務するのではなく職員一人一人がどのようにすれば病院目標に近づけるかを考え意見をだしあって、問題を抽出し解決のために実践していくことで病院は変わってくるのではないのでしょうか。皆さんと力を合わせてこの難局を乗り切っていきましょう。